

図書館員のひみつの本棚 第126回

おはなし会でもぜひ読んでほしい1冊です。

『ふたり』

瀬川 康男／作 富山房 1981年 1512円

<お勧め年齢>

乳幼児★★★ 小低学年★★★ 小中学年★★☆ 小高学年★☆☆ 中学生★☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

ねこがねずみを追いかける様子を、最後が「り」になる3文字で表した絵本です。
にやり きらり ばさり
でも、ねずみは ひらり と逃げて…。

<子どもに手渡す時のポイント>

すべて最後が「り」になる言葉で描いた物語。それだけで秀逸ですが、ストーリー自体も面白い展開となっており、物語としても十分楽しめます。文字や背景まで精密に描かれており、ぜひ、絵をゆっくり楽しみながら、声に出して読んで、言葉の響きと、これだけの文字で物語が作れる日本語の素晴らしさに触れてみてください。どの年代の子でもそれぞれに楽しめる絵本です。読書の秋、おはなし会であと1冊に迷ったら、ぜひ入れてみてください。最後のページの「おわり」で最後が「り」になった時の子どもたちの様子は、この絵本の素晴らしさを読み手にも実感させてくれます。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

総合図書館 重村さやか